

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
58	川崎市立坂戸小学校	山川 佳美

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>○明るく健康な子 ○やさしく思いやりのある子 ○よく考え行動する子 ○最後までやりとげる子</p>	<p>【学校生活の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもを大切にするために「何ができるのか」を考え、教職員が学校運営に参画していく。 ・子どもたちが前向きな気持ちで学校生活を送ることができるように、環境を整えていく。 ・支援教育コーディネーターを軸として、一人ひとりのニーズにあった支援ができる体制づくりに努める。 <p>【人権尊重教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の向上を図るとともに、坂戸の地域や社会の中で生き生きと過ごせる資質を育む。 <p>【安全・安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制を充実させ、児童の安全・安心を確保するように努める。 <p>【地域とある学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、関係機関と連携しながら、地域とある学校づくりを進める。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学校生活の充実	<p>【学習面】</p> <p>○学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくり ・主体的・対話的で深い学びになるような授業展開の工夫 ・指導内容の明確化と評価方法の工夫 <p>○校内研究及び研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力の向上 <p>○支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのニーズにあった支援と体制づくり ・児童の実態把握 ・一人ひとりに寄りそった適切な指導や支援 ・音楽・書写・家庭科等を含む専科体制の構築 	<p>「授業がよくわかる」と91%の児童が回答している。数値的には低くないが、昨年度より4ポイント下がっている。算数科の校内研究も3年目が終了しようとしている。授業の中で「わかる」「もう少しでわかりそう」などその時の思いを確認している。そのこともあり、自身の理解度を厳しく評価するようになっていないのか考えている。</p> <p>保護者の回答も、児童とそれほど相違のない結果となっているが、「そう思う」の回答には若干の差が見られる。引き続き、個人面談等で学校での学習状況を伝えていく必要があると考えている。</p>	<p>校内研究や研修を通して指導力向上をめざすとともに、「わかる」「できる」「楽しい」を実感できる授業づくりに今後も取り組んでいく。また、児童の実態を把握し、一人ひとりのニーズにあった指導や支援の方法を再考していく。</p> <p>個人面談などを通して学校での学習の様子を伝えたり、家庭での児童の様子を聞いたりしながら、よりよい指導を考えていく。</p>
2 学校生活の充実	<p>【生活面】</p> <p>○主体的な態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当番や係、委員会等の取組の充実 ・主体的に行動できる環境づくり 	<p>「苦手なことにも最後まで取り組んでいます」の設問に対し、「そう思う」「少しそう思う」と回答した児童は、98%で昨年度と差異がみられない。しかし、「そう思う」と回答した児童に着目すると、2年続けて減少している。前年度の考察どおり、校庭が使えないため、児童の活動の内容が限られてしまっていることが一因ではないかと推測している。</p>	<p>コロナ禍で制限されていた行動も、かなり解除されてきている。クラブ・委員会、校外学習等の充実を図るとともに、休み時間の過ごし方を工夫し、子どもたちの意欲が向上できるようにしていく。</p>
3 学校生活の充実	<p>○児童理解の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識の向上 ・相談できる雰囲気や環境づくり ・教育相談体制の拡充 	<p>「学校で困ったときに相談できる先生がいる」という設問に対し、昨年度と変わらない結果が見られる。しかし、「そう思う」のポイントが減っていることは課題と捉えている。保護者が感じているよりは、児童が先生や友達に相談できていると見取ることはできるが、保護者の回答で「そう思わない」「あまりそう思わない」が増えていることも課題である。</p>	<p>相談できる雰囲気や環境づくりに努めていくと共に、「先生や友達に相談することは悪くないこと」や「相談することによって、解決することのよさ」について子どもたちに伝えていく。</p>

4	学校生活の充実	<p>○児童支援の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援教育コーディネーターを中心とした支援体制の充実 ・次年度への引継ぎ ・関係機関との連携 	<p>「学校が楽しい」と思っている児童は、昨年度より5ポイント減っている。校舎増改築工事のため校庭が使用できず、体を動かして友達と自由に遊ぶことができないことが一因と考える。児童数増加により、体育館で全校児童が集まることも難しい状態にあることも関連していると捉えている。</p>	<p>異学年交流やイベントを児童主体で企画するなど、誰もが楽しくなるようなことを子どもたちと一緒に考え学校生活の充実を図っていく。</p> <p>子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の土台となる、学校生活への意欲を高められるような様々な視点から手立てを考えていく。</p> <p>支援教育コーディネーターを中心にして、経験の浅い教職員が指導・支援の方法を学ぶ機会を設定していく。</p> <p>引継ぎを丁寧に行い、教職員が自分事として捉え、児童への継続的な指導や支援ができるようにしていく。</p>
5	学校生活の充実	<p>○健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラタイムの活用 ・健康的に生活できる基礎づくり 	<p>校舎増改築工事が始まって1年半が経過している。その間、校庭が使用不可となっている。そのため、児童が休み時間に体を動かす場所がない状況が続いている。体育館・B棟屋上を活用してはいるが、体力低下につながる心配がある。実際に、転倒によるけがが増えている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類となったが、児童は依然として感染予防を意識していることが伺える。風邪等の感染症が流行って来ると、マスクをする児童が自然と増えている印象はある。</p>	<p>体育館・B棟屋上の開放は継続しつつ、体を動かす機会を意図的に増やしていく。</p> <p>教職員が授業中の姿勢について意識をし、子どもたちへ声かけをしていくようにしたい。</p> <p>感染症に対し過度に反応せず、必要に応じて対策するように子どもたちへ伝えていく。</p>
6	人権尊重教育	<p>○人権尊重教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による人権教育の実施 ・人権意識の向上 ・いじめや暴力は許さないという環境づくり 	<p>「友達が困っているときにやさしく声をかけたり話をきいたりしている」と思っている児童・保護者が97%となっている。ここ数年ポイントが上がっており、坂戸っ子の素直でやさしい姿の現れとともに心の成長が伺える。また、今年度は、「そう思わない」と回答した児童が一人もいなかったことも、嬉しい結果である。</p>	<p>高学年が低学年を保健室に連れてくる姿も多く見かける。日々の学校生活の中で、やさしさが感じられる行動を価値づけながら、思いやりの心情を育むように努めていく。</p> <p>研修等を通して、いじめや人権への意識を向上させるとともに、環境づくりに努める。</p>

7 人権尊重教育	<p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重しあえる望ましい人間関係の形成 ・自己肯定感の向上 ・集団における所属感の育成 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・「かわさき共生＊共育プログラム」効果測定を推進 ・GIGA端末活用上のモラル教育の推進 	<p>「苦手なことにも最後まで取り組む」と回答している児童の数値がかなり低くなっている。「やさしく思いやりのある子」や「よく考え行動する子」の数値にあまり変化がなく、「学校に行くのが楽しい」と「当番・係、そうじ・委員会・クラブ・校外学習などに進んで取り組んでいます」の数値が下がっていることから、学習や友達関係以外の諸活動が、学校生活への意欲や楽しさに大いに関係していると考えている。</p> <p>大根づくりやユーグレナ社による出前授業など、各学年が地域とかかわり、川崎や地域のよさを活用した学習に取り組むよう努めている。</p> <p>99%の児童が約束を守ってGIGA端末を使っていると回答をしている。授業等でGIGA端末を活用する際に、学年に応じてルールやモラルについて指導してきた結果である。しかし、大人が気づかないところで間違った使い方をしていく児童も見受けらる。</p>	<p>学習や友達関係以外の諸活動を通して培われた力が「苦手なことにも最後まで取り組む力」につながっていると考えている。課題を解決していくためにも、今後の諸活動を充実させていく。</p> <p>GIGA端末が導入されてから3年が経過している。正しい使い方をはじめ、情報モラルの大切さをその都度確認しながら、今後も継続して指導していく。</p> <p>学年に応じた外部講師による情報モラル教室も行いながら、保護者への啓発にも取り組んでいく。</p>
8 安全・安心	<p>○危機管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに基づいた訓練の実施 ・職員の危機管理に関する共通理解、危機管理体制の充実 	<p>児童の安全・安心が確保できるようにと「火災」「地震」「水害」「不審者」への対応について訓練をしている。「火災」「地震」への対応としては、高津中学校への避難経路を確認したり、体育館への避難を実施したりすることができた。「不審者」への対応は、スクールガードリーダーの協力を得て、実施している。</p>	<p>校舎増改築工事のために校庭を避難場所として使用できない。「火災」「地震」発生時の避難場所を確保したり、よりよい避難方法を模索したりする。</p> <p>継続的に「不審者」への対応について実施していく。</p>
9 地域とある学校	<p>○家庭・地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の設置 ・「学校だより」「保健だより」「給食だより」「ホームページ」等の積極的な活用 ・学校評価の推進・教育活動の改善 ・保護者・地域の協力によるよりよい教育活動の充実 ・寺子屋事業の充実 	<p>昨年度に比べて授業参観や懇談会など学校行事も実施できるようになり、情報発信に関する肯定的な回答が91%に増えている。</p> <p>保護者・地域の協力による教育活動が充実してきている。今年度もNECグリーンズイミングのスタッフの力を借りて水泳指導を行うことができた。また、各教科等の特質を踏まえ各学年の発達段階に応じて、地域教材を生かした教育活動を行っている。</p> <p>有志による合唱団が、地域に歌声を披露する場を設け恩返しできるような活動にも取り組んでいる。</p>	<p>今後も継続して、ミマモルメやホームページ等様々な方法で学校の様子を発信していく。</p> <p>保護者・地域の協力を得ながら、教育活動を充実させ、保護者・学校・地域と共に児童の育成にあたっていきたい。</p> <p>郷土愛へとつながるように、子どもたちへ地域の大切さを伝え、自分たちが住んでいる地域へ感謝する態度を育んでいきたい。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>今年度、学校運営協議会を設置した。協議会の中で、学校評価アンケートの「ほとんどの設問に対し児童と保護者の回答が同じような数値となっていること」「児童と保護者の回答結果にずれが出ている設問もあること」を説明した。委員から、「保護者の回答率が低いのは子どもへの無関心でなければよいのだが…」と心配の声があった。「子どものことを見ていなければ回答できない内容であり、分からないから回答を控えているのではないか」との考えからであった。学校評価アンケートがフォームによる回答になったため、保護者の回答を確実なものとするできずと捉えていたので、新たな視点となった。</p> <p>昨年7月下旬より校舎増改築工事が始まり、令和6年11月には新校舎へ移動する予定ではあった。2月に実施した説明会で、さらに工期が延びることが保護者へ伝えられた。それに伴い、令和8年度以降ではないと校庭が使用できない状況となっている。そのため、保護者から体力低下を危惧する声が寄せられている。</p>	<p>教職員が「一人ひとりの子どもを大切にすること」を意識して学年・学級経営に取り組んでいる。そして、学校教育目標と日々の教育活動を結び付けて考えられるように、校務分掌や学校評価アンケートを見直してきた。そのことにより、教職員一人ひとりが学校運営に参画する意識につながるだけでなく、総括教諭が中心となって様々なことに取り組む様子が見られるようになってきている。更なる意識向上と教育活動の充実を図っていきたい。</p> <p>経験年数が少ない教職員が多い。教職員の各ステージにあったOJTに取り組む中で、資質・能力をより一層向上させていきたい。そのことと併せて、公務員としての自覚と誇りをもった言動がとれるようにし、子ども・保護者・地域の信頼を構築できるように努めていく。</p>